

Shoot
for the moon.
Even if you miss,
you'll land among
the stars.



研究テーマ

19世紀のアメリカ文学、主にエドガー・アラン・ポーの研究をしています。ポーは「モルグ街の殺人」など3つの探偵小説を書き、探偵小説の祖だとも言われている作家です。探偵小説以外にも様々なジャンルを手掛け、ゴシックものの「アッシャー家の崩壊」、美女再生譚、骨相学や動物磁気学といった疑似科学や熱気球飛行を取り入れたSFもの、さらには“nevermore”と鳴く大鶴を生み出した詩人でもあります。私は、ポーの作品を当時の文化、特に銀板写真を含む科学や疑似科学、大衆文化と関連させて研究しています。

研究の道へ進んだきっかけ

父が文系の大学教員であったため、常に家で本を読んでいる

姿を見て育ち、いつも家にいられるなんていい仕事なのだろうと思ってしまったのが、きっかけです。また、幼少期にイギリスの小学校で学ぶ機会があり、個性豊かに生き生きと自己表現している同世代の友達と接し、英語を話すことで新しい自分を開拓できるように感じてから、英語で自分を表現することが好きになったのもこの道に進むきっかけのひとつです。

研究者になってよかったですと思うこと

研究室で好きな研究に没頭できる時間、海外にリサーチに行くとき、研究が認められて論文が出版されることになったとき、そして様々な研究分野で活躍する研究者同士、色々な話ができる環境、同僚に恵まれていることは幸せだと感じます。

宮澤 直美
MIYAZAWA Naomi

京都産業大学
外国語学部英語学科 准教授
専門分野：アメリカ文学・文化

略歴

津田塾大学大学院で修士号を取得後、米国ニューヨーク州立大学バッファロー校に留学し、アメリカで8年間過ごしました。博士号を取得し、2011年に帰国、2012年4月から京都産業大学外国語学部英語学科で教えています。

研究紹介

現在は、19世紀前半のアメリカ文学と銀板写真の関係を研究しています。魔術的な力とリアリズムの要素を同時に兼ね備えた銀板写真の登場は、ロマン主義からリアリズムへの移行期の作家たちにどのような影響を及ぼしたのか。ホーリー、メルヴィル、ポー、エマーソン、そしてフニー・ファーンら文流作家の作品、手紙、手記に加え、当時の銀板写真に関する一次資料を分析し、文学への影響を考察しています。その上で、実物を写像として銀板や紙の上に固定させる写真が、二重(多重)人格、仮面、反復や詐欺、死者の蘇りといった文学テーマとどのように関係しているのかを包括的に検証し、19世紀アメリカ文学の新たな解釈可能性を切り開くのが目標です。

My Hobby

ニューヨーク、マンハッタンの喧噪から癒してくれるブライアント・パーク(Bryant Park)。中央の写真は、ここに建つガートルード・スタイン(Gertrude Stein)像です。この公園の隣にあるニューヨーク公立図書館は、私が博士論文を執筆した思い出深い場所です。週末になると夫に子供を預けて、限られた時間の中で黙々と論文に向かっていた日々を思い出します。自分の生き方を模索したスタイン女史の像をみると、なんとなく温かい気持ちになります。



最近の主な論文・評釈

●“Puffing a Balloon: Edgar Allan Poe’s Balloon Stories and the Journalism Revolution.”

The Journal of the American Literature Society of Japan 9 (2010): 19-35.

●“The ‘Musical Mesmerism’ in the House of Poe.”

The Journal of the American Literature Society of Japan 11 (2012): 1-21.

●“The ‘Rational Irrationalism’ in Poe’s Detective Stories: Reynolds, Dupin, and the Ourang-Outang.”

『関西アメリカ文学』50 (2013): 5-20.

座右の銘

“Shoot for the moon. Even if you miss, you’ll land among the stars.”

人生の転機になった一冊／学生に薦めたい一冊
高山宏『アリス狩り』

未来の研究者へ一言

“Shoot for the moon. Even if you miss, you’ll land among the stars.”

